

PEM025-18

会場:ファンクションルームA

時間: 5月27日16:45-17:00

SEALION : チェンマイ(18.8N, 98.9E, Dip lat. 13.1)への全天イメージャ導入と大規模大気波動観測の初期結果報告

SEALION: The first result of the large scale wave structure observations using an all-sky imager installed at Chiang Mai

久保田 実^{1*}, 津川卓也¹, 石井守¹, Space Environment Group¹, 大塚雄一², 塩川和夫², Tharadol Komolmis³, Siramas Komonjinda³

Minoru Kubota^{1*}, Takuya Tsugawa¹, Mamoru Ishii¹, Space Environment Group¹, Yuichi Otsuka², Kazuo Shiokawa², Tharadol Komolmis³, Siramas Komonjinda³

¹情報通信研究機構, ²名古屋大学太陽地球環境研究所, ³チェンマイ大学

¹NICT, ²STEL, ³Chiang Mai University

情報通信研究機構(NICT)、名古屋大学太陽地球環境研究所(STE研)、及びチェンマイ大学は共同で赤道域電離圏・熱圏観測を目的とした、タイ・チェンマイにおける光学観測施設の整備を進めている。その一環として、2010年2月に大気光イメージャ(ASI)が、チェンマイ郊外のシリントン観測所(18.8N, 98.9E, Dip lat. 13.1)に設置された。このASIの主要なターゲットの一つは水平波長100~1000km程度の大規模波状構造である。このような大規模波状構造はプラズマバブルの発生メカニズムに何らかの寄与をすることが予想されている。

本発表では、この新たに設置されたASIの初期解析データを紹介するとともに、大規模波状構造とプラズマバブルの関連について、イオノゾンデやGPS等の他の電離圏観測データも交えて議論する。

キーワード: イメージャ, プラズマバブル, SEALION

Keywords: ASI, plasma bubble, SEALION